

KYUSHU NATURE TRAIL



一般社団法人
九州自然歩道フォーラム

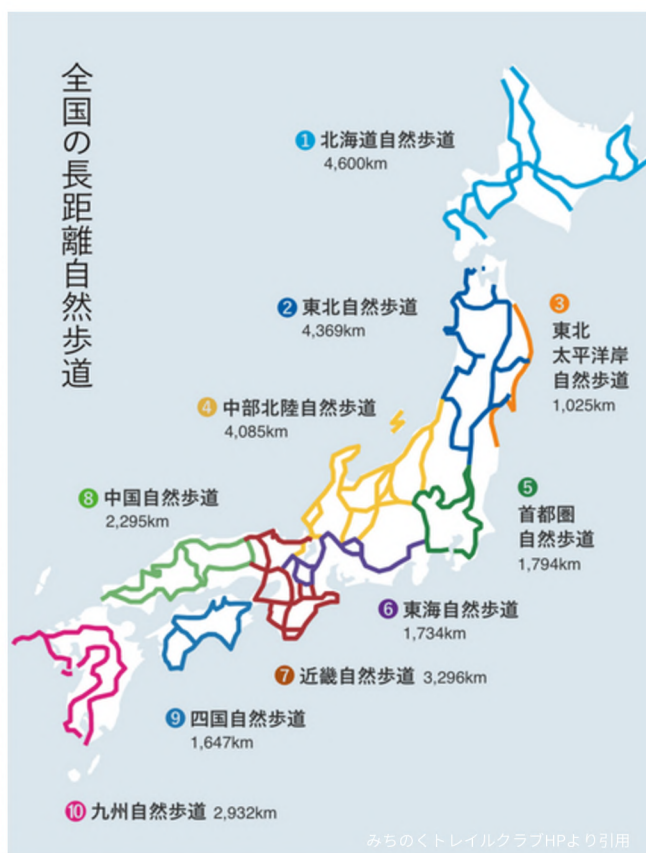
2024年次 報告書

日本の「長距離自然歩道」と進化してきた「ロングトレイル」

1969年、厚生省国立公園部より提唱された長距離自然歩道構想を皮切りに、日本各地で長距離自然歩道が整備されてきた。

構想をもとに長距離自然歩道1番目として、着手されたのが「東海自然歩道」である。高度経済成長期、都市部のスプロール化が進む東京～大阪に“自然と線引き”をするために東海自然歩道ができた。気軽に自然や歴史・文化に触れられる場所としての歩道を整備。当時の社会情勢、野外レクリエーション需要に応えるため「人間性の回復」、「歩くことの復権」、「自然保護の防波堤」等の側面も持ち合わせ、歩道は愛されて2024年、東海自然歩道開通50周年の年を迎えた。

東海自然歩道を皮切りに、九州自然歩道、中国自然歩道、四国自然歩道、首都圏自然歩道と各地方に整備されていき、2019年には東北太平洋岸自然歩道、通称「みちのく潮風トレイル」が開通。全国10箇所、総延長は27,000kmに及ぶ長距離自然歩道が整備されている。一方で、各地方に整備されたものの、維持管理の課



題は各所に見受けられている。そのため、みちのく潮風トレイルでは、官民共同でのトレイル維持管理システムの構築、地域計画としてトレイルを位置づけ、認定NPO法人みちのくトレイルクラブを運営団体とすることで、長距離自然歩道の活用の幅をさらに広げるモデルケースになっており、全国の自然歩道への先行事例として、波及させている。

2024年に東海自然歩道50周年、みちのく潮風トレイル5周年を迎え、環境省中心に、民間主催でも様々な記念行事が行われ、長距離自然歩道への注目度がますます高まっている。

「九州自然歩道」の提唱と全線開通

"観光としての長く歩く旅"を提唱した九州・山口経済連合会と九州知事会による共同事業

1969年に国が打ち出した「長距離自然歩道構想」に着目した九州・山口経済連合会（現・九州経済連合会）は、九州全域を対象とする「九州自然歩道」構想を観光振興の視点から提唱した。この提案は九州地方知事会で採択され、福岡県が幹事県として計画案をとりまとめ、九州7県の知事連名で環境庁(当時)に対し、整備要望が提出された。

1974年の東海自然歩道の開通を受け、翌1975年より九州自然歩道の整備が本格的に開始された。環境庁の支援のもと、各県が整備を進め、1980年度には全線総延長2,091kmにおよぶ、日本で2番目のナショナル・ロングトレイルとして、九州自然歩道が完成・開通した。

この歩道は、山や海などの自然風景に加え、太宰府天満宮や長崎平和公園などの歴史文化資源も巡る周回型ルートとして設計されている。ルート選定にあたっては、自然歩道としてふさわしい既存の道（峠道・里道(りどう)・林道など)を極力活用する方針が取られ、地域住民の暮らしの中にある道が数多く組み込まれた。

また、九州自然歩道のシンボルマークには「かたつむり」が採用されている。全国公募により、6,142点の応募作から選ばれたもので、「小さいながらも自然の中でしか生きていけない存在を、子どもにも親しみやすい形で表現したい」という作者・花田寛治氏の思いが込められている。

当時は、西日本新聞社が「山びこの径九州自然歩道 徹底ガイド」(上・中・下巻)を2度にわたり出版するなど、開通にあわせた広報や盛り上がりも見られた。

現在、歩道は各県の自然環境課系の部署が所管し、維持管理を行っているが、長年の経過により道標や施設の老朽化が進み、新規道路の開通や自然災害によるルート分断も発生している。こうした背景により利用者数は減少傾向にあり、認知度の低下や担い手の高齢化とともに、維持管理体制は年々厳しさを増している。



九州自然歩道シンボルマーク



「九州自然歩道フォーラム」の設立

"日本を代表するロングトレイルに" 九州のアウトフィッターたちが集結した組織設立

九州自然歩道は現在、環境省九州地方環境事務所および福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島県の7県が、市町村と連携しながら維持管理を行っている。しかし、総延長およそ3,000kmに及ぶ長距離自然歩道において、利用実態の把握は難しく、整備や保全は属人的かつ断片的になりがちである。道標や施設の老朽化に加え、新規道路や自然災害によるルート分断なども重なり、歩道の維持は年々困難さを増している。

かつては、各地域で自然歩道に関連する取り組みを行う民間団体が存在していたが、九州全域を対象とする横断的な組織は存在せず、環境省や各県との連携も、必要時の個別対応にとどまっていた。その結果、各県が独自に看板設置やマップ制作を行うなど、管理方針が統一されておらず、利用者から見ても全体の情報把握が難しい状況に陥っていた。これにより、利用の低迷と管理体制の弱体化が連鎖し、負のスパイラルが生じていた。

このような現状を大きく動かすきっかけとなったのが、2009年の加藤則芳氏の訪問である。アメリカのロングトレイル文化を日本に紹介し、「信越トレイル」の整備に携わった加藤氏は、九州自然歩道を視察した際、「受け入れ体制さえ整えば、日本を代表するロングトレイルになりうる」と語った。この言葉は、地域の有志や関係者に大きな刺激と希望を与えた。その後、環



境省は「九州ロングトレイルミーティング」を開催し、九州各地のアウトフィッター、登山ガイド、地域活動団体、行政関係者らが一堂に会した。歩道の可能性と課題を共有するこの場は、広域的な連携の必要性を再確認する契機となった。

この流れを受け、2012年8月、ミーティングに参加していた有志を中心に「九州自然歩道フォーラム」が設立された。行政区分を越えて歩道全体を俯瞰し、自治体や地域の活動と連携しながら、官民連携による再興と利活用を広域的に推進する組織である。これまで不十分であった広域調整や情報発信、地域間連携の基盤としての役割を担う。



九州7県をめぐる、自然・歴史・文化をつなぐこの歩道は、新たに生まれることのない貴重な資産である。1969年の構想以来、九州経済連合会、環境省、各県、そして地域住民による多くの努力によって形づくられたこの道を、単なる過去の遺産ではなく、いまを生きる人びとの資源として活かしていくことが求められている。「九州をつなぐ自然と歩ける道」として、この歩道を未来へと引き継ぐために、環境省・各県・市町村・地域住民、そして国内外の歩き人とともに、持続可能な道づくりをこれからも進めていく。

九州自然歩道のセクション

九州の名峰、歴史的な名所、文化圏を巡る歩道

九州自然歩道は、九州7県をぐるりと巡るように設定された長距離自然歩道である。北の起終点は福岡県北九州市の皿倉山山頂に位置し、ここには起点を示す「元標」とともに、アメリカにおける長距離自然歩道構想の提唱者ベントン・マッケイ氏の言葉が刻まれた石碑が設置されている（左ページ写真参照）。1980年の全線開通式も、この皿倉山山頂で開催された。

ルートは、皿倉山から福智山、平尾台、英彦山を経て、東ルートと西ルートに分岐する。東ルートは大分・宮崎を経由して鹿児島へと至り、西ルートは佐賀・長崎・熊本を経て、同じく鹿児島県内で合流する。南の起終点は、鹿児島県南大隅町の九州本土最南端、佐多岬に設定されている。ルート上には、海岸線の絶景、活火山、歴史文化遺産、里山の暮らしなど、九州の多彩な風景と出会いが広がっている。

さらに、2018年に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されることを機に、九州自然歩道が平戸市や五島列島へと延伸され、現在では総延長約3,000kmに達している。これは日本国内でも有数の長さを誇る歩道網であり、各県をまたいで歩きながら、地域の自然と文化を体感できるルートとなっている。

歩道の沿線には、「九州自然歩道利用拠点施設（トレイルセンター）」が5か所設置されている。宮崎県綾町の綾トレイルセンターは現在休業中であるが、その他の施設はシャワー室やキャンプ場を併設し、歩道の地図や情報を紹介する展示スペースを備えており、ハイカーや地域住民の交流・休憩の場として活用されている。また、地域のイベントや自然体験活動の拠点としても期待されている。

各拠点施設は以下の通りである。

- 隠居岳ウォーカーズパーク（長崎県佐世保市）
- 田代原トレイルセンター（長崎県雲仙市）
- 金峰森の駅みちくさ館（熊本県熊本市）
- 輝北町トレイルセンター（鹿児島県鹿屋市）
- 綾トレイルセンター（宮崎県綾町／現在休業中）





団体概要

団体情報

一般社団法人九州自然歩道フォーラム

〒810-0023 福岡市中央区警固2-1-6 宇田ビル206号室

TEL : 092-600-4399 MAIL : info@kntf.jp

  @kyushu_nature_trail2108

組織構成

アドバイザーチーム

相澤久美氏 (認定NPO法人みちのくトレイルクラブ 常務理事、
(一社)トレイルブレイズハイキング研究所 常務理事)
江副直樹氏 (ブンボ株式会社 代表取締役)

理事会

代表理事



野元 尚巳
かごしまカヤックス
代表

副代表理事



山口 久臣
(一社)IOE
代表理事



成崎 聡
NPO法人ひむか感動体験ワールド
事業部長

事務局

福島 優 事務局長
(キッチンハイク九州 代表、(同)Trailhead 代表)
田川光介 事務局スタッフ
福島緑 事務局スタッフ

長崎支部

田川光介 支部長
松本賢人
松田幸也
福島優



九州自然歩道フォーラム理念

九州をつなぐ 自然と歩く道づくり

九州7県をつなぐ九州自然歩道を
“自然と触れ合える道”
と
“自然と歩きたくなる道”
へと再興していく

5つの経営方針

- ①九州自然歩道をベースとした各地域での歩く文化の醸成
- ②九州内のトレイルに関する総合的な中間支援事業
- ③“歩く事業”の企画と創造と普及
- ④自然環境、自然体験活動を活用した事業
- ⑤総合的なツーリズムに関わる事業

九州トレイルパートナーズ

自然歩道を地域とともに育て、次世代へつなぐための新たな参加型制度「九州トレイルパートナーズ」を創設。本制度は、歩道の保全・活用・普及に関心のある多様な主体が、それぞれの立場から無理なく関わられる仕組みを目指している。

制度は、3つの参加形態で構成され、企業・団体・個人それぞれの役割や関心に応じて柔軟に参画できる。行政や専門家だけでなく、地域に暮らす人々や事業者が歩道づくりに関わる体制づくりを進めていく。

詳細HP



〔トレイルパートナー〕

個人や団体として、歩道の普及や活用を、ともに広げていく仲間。

〔トレイルワーカー〕

歩道の整備や調査、地域の活動に実際に関わりながら、現場で道を支える実践的な担い手。

〔里山サポーター〕

地域に根ざした視点から里山や生活文化を守り育てるため、会費を通じて支えるサポーター。

過去の活動実績

九州全域

- 九州自然歩道管理者アンケート調査(2012)
- 道標(みちしるべ)プロジェクト(2012)
- 西日本新聞「あるこ！」連載(2013～)
- 九州自然歩道管理活用・基盤整備事業(2013)
- 7県担当者ヒアリング(2013)
- 関係者ヒアリング(2014)
- 九州自然歩道活用促進事業(2014)
- 「HYAKKEI」に連載(2015～2016)
- 「国立公園10月号」寄稿(2017)
- CATS観光創造研究会講演(2018)
- FBS開局50周年記念番組「九州1周ヤマトホ！」(2019～2020)
- 「みちのく潮風トレイル」全線開通記念式典・シンポジウム(2019)
- 「長距離自然歩道構想50周年記念シンポジウム」講演(2019)
- 「九州自然歩道40周年記念シンポジウム」共催(2020)
- (公社)日本環境教育フォーラム「地球のこども」寄稿(2021)
- 「清里ミーティング」講演(2021)
- 「ロングトレイル懇談会」招聘
- 令和3年度自然歩道関係功労者受賞(2021)
- 「Trekkitchen2023」協力(2023)

福岡県

- 第2回九州ロングトレイルミーティング(2011)
- 「里山・田園保全リーダーミーティング」講演(2012)
- 第3回フォーラムミーティング(2012)
- 第1～3回九州自然歩道ウォーク(2013)
- 福岡県コース現地踏査(2013)
- 第6回フォーラムミーティング(2013)
- 福智山管理作業イベント(2013)
- 「アウトドアシティ福岡2014春」出展(2014)
- 「パタゴニアスピーカーシリーズ」講演(2014)
- 「福岡の山のトイレ、環境を考える会」講演(2015)
- 「福岡女子大学環境経済学研究室」講義(2015)
- 「フレッシュマンカレッジ」講演(2016)
- 「せふりトレッキング満ぶくツアー」ガイド(2016)
- 「造園学会九州支部」発表(2016)
- 「ジョン・ミューア・トレイル報告会in福岡」主催(2016)
- 第10回フォーラムミーティング(2016)
- 「好日山荘福岡バルコ店」机上講座(2017,2018)
- 「ふくおか登山フォーラム」講演(2018)
- 「夏山フェスタin福岡2019」ブース出展(2019)
- 「ソーシャルビジネスフォーラム」講演(2019)
- YAMAP英彦山ルート開発(2021)
- 福岡県九州自然歩道親子向けトレッキングイベント事業(2019～2022)
- あったがわの旅・九州自然歩道トレッキングガイド(2015～)
- 「夏山フェスタin福岡2023」講演(2023)
- 「インターナショナルエアアカデミー」講演(2023)

佐賀県

- 第8回フォーラムミーティング(2015)
- 佐賀県コース現地踏査(2016)
- 太良町安全講習会(2022)
- 多良海道・街道案内人育成講座(2023)
- サガノアソビ(株)会社案内制作(2023)

大分県

- 第4回九州自然歩道ウォーク&ロングトレイルナイト(2013)
- 大分県コース現地踏査(2015)
- くじゅうフェスin長者原(2014,2016,2019)
- 「山の日」制定記念in大分・くじゅう(2015)

長崎県

- 北部3県勉強会(2016)
- 長崎県コース現地踏査(2017)
- 高岩山トレッキングガイド(2019)
- 島原半島の九州自然歩道調査及びトークイベント(2023)

宮崎県

- 九州環境教育ミーティング(2012)
- 造園学会九州支部大会(2012)
- 第7回フォーラムミーティング(2014)
- 宮崎県コース現地踏査(2017)
- 「国立・国定公園をつなぐ九州自然歩道の新しい一歩づくり事業」補助(2021)
- 九州自然歩道魅力ステップアップ事業
- 「ヒアリング補助」(2022)
- 福本玲央オンライン写真展「gentle」
- トークイベント登壇(2022)
- 九州自然歩道ステップアップ事業
- 「祖母山ツアー」(2022)
- 「綾町ドロッコ道再生フォーラム」講演(2022)
- 九州自然歩道ステップアップ事業
- 「道なおしワークショップ」(2023)

熊本県

- 九州ロングトレイルミーティング(2011)
- 九州自然歩道意見交換会(2011)
- 南阿蘇の九州自然歩道歩き(2011)
- 第1回フォーラムミーティング(2012)
- 第4回フォーラムミーティング(2013)
- 第5回九州自然歩道ウォーク(2014)
- 第9回九州自然歩道フォーラムミーティング(2015)
- ビジターセンター意見交換会講演(2016)
- WaWくまもと構想策定委員(2017)
- 第11回九州自然歩道フォーラムミーティング(2017)
- 第12回九州自然歩道フォーラムミーティング(2019)
- 「WaWくまもとネットワーク設立記念大会」講演(2020)
- 熊本県コース現地踏査(2018～2023)
- 「人吉球磨地域における九州自然歩道利活用」アドバイザー(2021～2023年)

鹿児島県

- 鹿児島県コース現地調査(2007)
- 鹿児島県ミーティング(2012)
- 第2回フォーラムミーティング(2012)
- 第5回フォーラムミーティング(2013)
- 「世界自然遺産 奄美トレイル」講演(2017)
- 「白紫池湖面利用ルール運用」(2021～2022)
- 鹿児島県コース現地踏査(2023～)

2024年度 事業一覧

- 01 「あるこ！～九州自然歩道の旅～」 連載
- 02 第13回九州自然歩道ミーティング
- 03 令和6年度九州自然歩道宮崎地域連絡会
九州自然歩道 Miyazaki 「あんたもさるいてみらんね」
- 04 あったがわの旅企画運営事業
- 05 歩き旅トークイベントVol.2
- 06 霧島連山登山道道なおし整備
- 07 南阿蘇外輪山歩道調査
- 08 長崎県・島原半島HikingMapBook制作事業
- 09 旅行サービス手配業（ランドオペレーター） 事業
- 10 〔出展〕 ロングトレイルミーティング2024
- 11 〔出展〕 「長距離自然歩道を歩く旅」 写真展
- 12 〔協力〕 Trekkitchen2025
- 13 〔メディア〕 Columbia 「WITH OUTDOOR」
- 14 〔メディア〕 RUN+TRAIL別冊 「TRAILHEAD」
- 15 〔受講研修〕 ATガイドブートキャンプ
- 16 〔受講研修〕 LNTインストラクター研修

2024年度 事業報告

01 「あるこ！～九州自然歩道の旅～」連載

西日本新聞より受託。事業費24万円。2013年8月より連載中の新聞紙面における九州自然歩道体験記。毎月第1水曜日朝刊に連載中。福岡県から始まり、大分・佐賀・長崎を歩き、3月時点で熊本県・多良木町に到達。福島が担当。

成果：37万部発行の西日本新聞朝刊に連載（25年3月時点で、連載134回）

継続的な九州自然歩道PRの機会



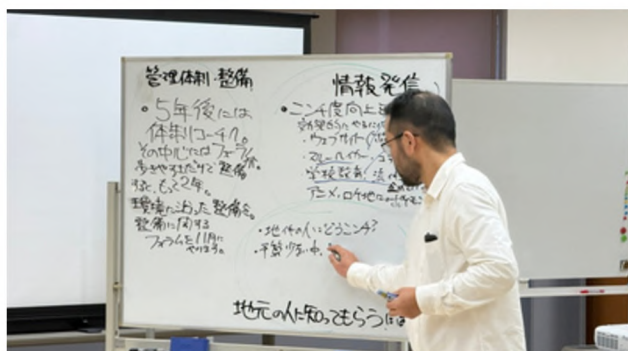
02 第13回九州自然歩道合同ミーティング

環境省九州地方環境事務所国立公園課より受託。事業費30万円

第13回九州自然歩道合同ミーティングを熊本の九州地方環境事務所にて開催。九州7県の担当者及び環境省国立公園課、各地の自然保護官等が一堂に会した。各県の取組報告や課題の共有、今後の方向性について活発な意見交換が行われ、広域的な連携の重要性を再確認。次年度以降に、九州自然歩道50周年に向けた継続的な会議及び九州自然歩道の憲章づくりの目標を共有した。

成果：関係者の合同会議／38名の出席者

報告ページ▶



03 令和6年度九州自然歩道宮崎地域連絡会 九州自然歩道 Miyazaki 「あんたもさるいてみらんね」

宮崎県自然環境課 > (一社)トレイルブレイズハイキング研究所宮崎支部より受託。
宮崎県の維持管理業務を担う宮崎支部より、ヒアリング業務のサポート及びトークイベントでの登壇を実施。また、市町を集めた連絡会にも出席。成崎及び福島が担当。
成果：トークイベント来場者約50名／宮崎県内の連携強化、九州自然歩道のPR



04 あったがわの旅企画運営事業

福岡県政策支援課 > (一社)田川広域観光協会より受託。11年目。事業費15万円。
赤村・福智山・英彦山の3つの九州自然歩道イベントのガイド。福島が担当。
成果：赤村16名、福智17山名、英彦山は雨天中止の計33名の参加者



05 歩き旅トークイベントVol.2 「雲仙から歩く九州自然歩道の魅力」

九州自然歩道フォーラム自主事業。協力：(一財)自然公園財団雲仙支部。
2024年度に九州自然歩道をスルーハイクした雲仙市の元地域おこし協力隊「ひのっ
ち」さんによる報告会及び、長崎県自然環境課・地元ハイカーによるパネルディスカ
ッションを開催。福島及び田川が担当。
成果：来場者40名／長崎新聞、ひまわりテレビにて紹介



06 霧島連山登山道道なおし整備

一般財団法人自然公園財団えびの支部との連携

霧島連山における生態系回復を目指した登山道整備。10月に視察を兼ねた整備、12月に阿蘇山道整備の渡邊裕介氏を招いて、道なおしワークショップを実施。

えびの管理官事務所等が参加。野元が担当。

成果：登山道の修復／霧島連山における連携強化



07 南阿蘇外輪山歩道調査

環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所との連携

南阿蘇外輪山の自然歩道活用に向けて、歩道の調査を実施。

2月及び3月に1回ずつ行い、次年度も継続して実施の予定。福島及び田川が担当。

成果：阿蘇くじゅう国立公園管理事務所との連携強化／登山道の現状確認

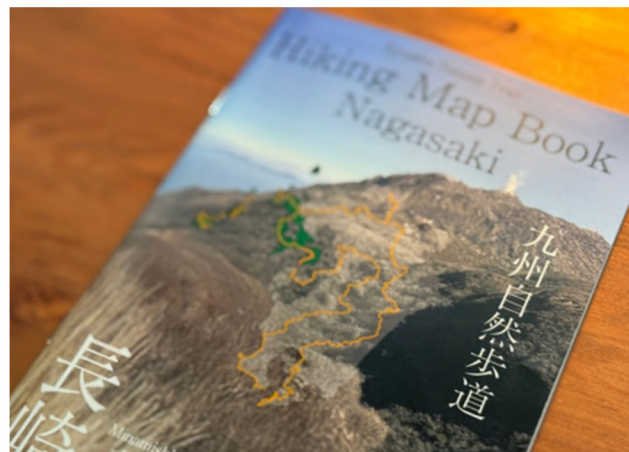


08 長崎県・島原半島HikingMapBook制作事業

自主事業。国立公園利用基金を活用（28万円）。

みちのく潮風トレイルや宮崎県等で作られているHikingMapBookの長崎県・島原半島モデルの制作。福島が担当。

成果：長崎HikingMapBookの完成／新しい収益モデルの構築



09 旅行サービス手配業（ランドオペレーター）事業

自主事業。旅行サービス手配業の登録(詳細は14p)を行い、旅行者の手配業を開始。九州自然歩道を通る地域へのプラン提案やガイド手配等を実施。今後は、九州自然歩道を歩くプラン造成等の実施を想定。福島が担当。
成果：旅行サービス手配業の登録／観光としての九州自然歩道及び周辺地域への誘客



10 〔出展〕 ロングトレイルミーティング2024 主催：読売新聞社

東海50周年、みちのく5周年を記念した講演会。「日本のロングトレイル紹介コーナー」にて出展。ハイカーに対して九州自然歩道のPRができた。
成果：約200名の来場者



11 〔出展〕「長距離自然歩道を歩く旅」主催：環境省

東海50周年、みちのく5周年を記念した写真展。九州自然歩道エリアの写真を地域のハイカーたちの協力を得て、提供。
成果：2024年7月23日～8月18日の期間中のセンター来館者数18,792名



12 〔協力〕 Trekkitchen2023

山学舎及びキッチンハイク九州共催のトレッキングイベントへの協力。
成果：イベント開催地として九州自然歩道の利用



13 [メディア] Columbia 「WITH OUTDOOR」



Columbiaが運営するアウトドアメディア「WITH OUTDOOR」の記事「山頂を目指すだけが登山の魅力じゃない！初心者でも楽しめるおすすめのロングトレイル」にて、九州自然歩道の紹介。写真や情報の提供を行った。

成果：大手Webメディア掲載

WITH OUTDOOR
by Columbia Sportswear



【九州】

— 九州自然歩道(全長:3,000km)

九州の自然と文化を満喫！名所尽くしの壮大なロングトレイル



14 [メディア] RUN+TRAIL別冊 「TRAILHEAD」



日本各地の「ロングトレイル」を特集した雑誌。東海自然歩道50周年がメインの特集号に合わせて、九州自然歩道を10p掲載。福島他、宮崎ハイキングクラブや島原半島で取り組んだ雲仙自然保護官事務所のインタビューを掲載いただいた。

成果：大手雑誌掲載



15 [研修受講] ATガイドブートキャンプ 主催：大分県 観光政策課 講座監修：九州アドベンチャー通訳ガイド協議会(KAI)企画運営。

大分で今後活躍するアドベンチャーツアー(AT)ガイド研修。英語でのガイディングや自然を活かしたプログラム作り等を、実践されているガイド、また鹿児島でインバウンド旅行事業を行う「TABITTO」から学ぶことができた。



16 [研修受講] LNTインストラクター研修 主催：(一社)日本セーフティパドリング協会。

アメリカで生まれたアウトドアを楽しむときに自然への影響を少なくする7原則「LeaveNoTrace」のインストラクターL1コースの研修を受講。7原則の概念を学ぶとともに、いかに伝えるかのワークショップ手法なども実践形式で学習。L1を取得したため、LNT研修ワークショップを開催することが可能となった。



旅行サービス手配業に基づく ランドオペレーター業務の開始

旅行サービス手配業とは、旅行会社の依頼を受けて、旅行先における宿泊施設や食事、交通、ガイドなどの各種手配・予約を行う事業である。これらの業務は、一般に「ランドオペレーター」と呼ばれる現地手配の専門会社が担っており、旅行会社がプランを造成する際に、現地事情に精通したランドオペレーターと連携することで、より質の高い旅行体験の提供が可能となる。従来、こうした業務を担うには旅行業登録が必要であったが、2018年の制度改正により、「旅行サービス手配業」としての登録制度が創設された。これにより、旅行会社からの依頼に基づいて手配業務を行うことが可能となり、地域に根ざした団体や事業者も、観光の担い手として手配業に参画できるようになった。



観光庁HPより

九州自然歩道フォーラムでは、旅行サービス手配業者としての登録を活かし、九州全域に広がるアウトドアガイドや地域団体とのネットワークを基盤に、主に九州自然歩道の利活用を軸とした体験型旅行の手配・コーディネートに取り組んでいる。

トレッキングを中心に、カヤック、e-Bike、キャンプなど、多様な自然アクティビティに対応可能な現地パートナーとの連携を進め、地域ならではの魅力を活かした自然体験の価値向上を図っている。これらの活動を通じて、地域内での経済循環を促進し、観光を通じた持続可能な地域づくりに貢献していくことを目指している。



生態系回復を目指した登山道整備 道なおしワークショップ

九州自然歩道では、登山道の持続的な利用と自然環境の保全を両立させるため、自然本位の登山道整備に取り組んでいる。その一環として、阿蘇を拠点に活動する渡邊裕介氏（阿蘇山道整備）による、生態系の復元や土壌環境の安定を目的とした登山道整備手法を導入している。



初めは、座学。
登山道整備の目的や考え方をお伝えします。



整備を始める前に、自然環境の把握。
どのような整備が良いか検討します。

登山道を含む自然道は、地形や気候変動、そして人の往来によって侵食が進み、荒廃していく傾向にある。これに対して画一的な工法で対処すると、かえって自然環境に悪影響を及ぼすこともある。そこで本ワークショップでは、水の流れ、地形の特性、人の歩き方といった複数の視点をもとに最適な工法を判断し、現地にある倒木や石、砂利などの自然素材を用いて、植生回復を重視した整備を行っている。

本整備の第一の目的は、「歩きやすさ」ではなく「植生の回復」であり、自然景観に配慮しつつ、環境への負荷を最小限に抑えることを重視している。歩くことで土壌が再び傷まないよう、自然の状態に近い安定した道の再生を目指している。



様々な道具を用いて、自然に合う登山道へ
整備を行っていきます。



整備完了は始まり。ここで雨や踏圧等、時間が
経ち自然に溶け込んでいる状態を目指します。

今後も九州自然歩道では、自然との共生を前提とした登山道整備を各地で展開していく予定である。登山道整備に関心のある地域や団体と連携しながら、持続可能な道づくりに取り組んでいきたい。

フォーラム長崎支部設立

島原半島での取り組みを契機として、長崎県内の地元ハイカーたちとの協力・連携が着実に進展してきたことを受け、2024年4月、九州自然歩道フォーラムの長崎支部が正式に設立された。これは、九州自然歩道の地域拠点としては初の本格的な地方支部であり、長崎県内における利活用と普及活動の体制強化に大きな一歩となる。

支部長には、これまで島原半島のハイキングマップ制作やイベント運営に携わってきた田川光介氏が就任した。田川氏はフォーラムの事務局スタッフも兼任しており、地域との信頼関係を活かしながら支部の基盤構築を担っている。

支部メンバーには、九州自然歩道長崎県セクションを全線踏破し、すでに他県の区間にも挑戦を進めている松本賢人氏、松田幸也氏が参画している。長崎県内の現地情報に精通したハイカーたちが中核を担い、今後の活動を牽引していく体制が整いつつある。また、フォーラム事務局長の福島も支部運営に関与し、本部との連携および情報発信体制を支えている。



支部設立以降、長崎県内における九州自然歩道の認知度向上と利活用促進を目的として、ルート保全活動（トレイルクリーン）、交流イベント、情報発信などの取り組みを段階的に展開していく。2024年2月には、事前企画として、島原半島・千々石断層ルートにおいて清掃活動を実施し、地元関係者とのネットワークも徐々に広がりを見せている。今後は登山道整備や教育機関との連携による地域学習の機会創出など、活動の幅をさらに広げていく計画である。

長崎支部として、県内の自然歩道を次世代へと継承することを目指し、九州自然歩道のもつ魅力をさらに掘り起こしていくとともに、フォーラム本部や他団体との連携を強化し、長崎から九州全体の歩道ネットワークを支える存在として、地元からの発信力を高めていく。



2025年度の目標

2024年度は多くの皆さまのご協力に支えられ、大きな一歩を踏み出すことができた。今年度は、各地で始まった取り組みを着実に広げ、地域に根ざしながら、2030年を見据えたビジョンの具体化と共有を推進していきます。

01

九州トレイルパートナーズ制度の普及

地域の企業・団体・個人が九州自然歩道を支える仕組みとして、2025年度スタート。制度への理解と共感を広げ、保全活動やイベントへの協力、広報など多様な関わり方を提示することで、地域に根ざした持続的な支援体制の構築を目指す。初年度は登録数の増加と事例の可視化を進め、制度の認知度を高める取り組みを展開していく。



02

島原半島のHikingMapBookの販売拡大

2025年5月に発売開始した「島原半島HikingMapBook」は、九州自然歩道長崎県初の長く歩く旅用のマップ。詳細な距離や標高などの地図情報に加え、交通情報も収録している。今後は、登山用品店や観光案内所などへの販路拡大、PRイベントの実施、オンラインでの発信強化を通じて、さらなる認知と購入促進を図っていく。



03

長期的なビジョンの設定と計画

中長期的なビジョンを策定することで、九州自然歩道の将来像を地域や関係者と共有し、一貫性のある歩道整備・利活用の方向性を描いていく。2025年度は、各地域における目標や課題を整理し、合意形成を図る対話の場を重ねる。その過程を通じて、全体の戦略とアクションプランを構築し、段階的に実行していく基盤を整えていく。

2030年度「50周年」に向けて

1. 2030年と2040年に向けた中長期ビジョンとロードマップの策定・運用

九州7県や環境省、地域の関係団体と協働しながら、歩道の整備・活用・運営に関する将来像を明確にし、段階的なロードマップとして落とし込むことで、広域的かつ持続的な歩道運営の実現を目指す。

2. インバウンド対応のインフラと情報基盤の整備

訪日外国人の利用を見据え、英語情報の充実や、ルート上のサイン・アクセス情報の改善により、海外からのハイカーが安心して歩ける環境を整備することで、国際的なトレイルとしての魅力と信頼性を高め、九州の自然資源を世界に発信していく。

3. 環境省及び7県の担当者が集まる連絡協議会の設立と運営

環境省および7県の担当者が集まり、意見交換や連携を行うための連絡協議会を設立し、運営。これにより、より緊密な協力関係を構築し、持続可能な自然歩道の推進において政府機関との連携を深める。

謝辞

2024年度も、自治体の皆さま、各地域の事業者の皆さま、ガイドの皆さま、そして多くの方々のご支援のおかげで、(一社)九州自然歩道フォーラムはさらなる取り組みを展開し、九州自然歩道の再興に一步近づくことができました。

この機会に、心から感謝申し上げます。皆さまのご協力とご支援によって、私たちの活動はより効果的で意義あるものとなりました。改めて、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

今後も九州自然歩道フォーラムは、より一層の発展を目指し、九州の豊かな自然環境を守り、地域の魅力を高めるための取り組みを続けてまいります。引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(一社)九州自然歩道フォーラム
代表理事 野元 尚巳
副代表理事 山口 久臣
副代表理事 成崎 聡
事務局長 福島 優
長崎支部長 田川 光介
事務局 福島 緑
アドバイザー 相澤久美氏
江副直樹氏

九州自然歩道フォーラム発足時の呼びかけ人
加藤則芳氏、新村史明氏、志賀壮史氏、税田裕子氏、
岡野隆宏氏、成崎聡、山口久臣、野元尚巳

ご協力いただいている皆さま

九州自然歩道みやざきハイキングクラブ / (一社)トレイルブレイズハイキング研究所 / 山學舎 /
阿蘇山道整備 / あそBe隊 / 登山教室モルゲン / (同)PORTAL / (株)訪う

(敬称略・順不同)

2024年度の九州自然歩道維持管理にご尽力いただいていた担当部署の皆さま

環境省	九州地方環境事務所	則久雅司氏			
	国立公園課	渡邊春隆氏	中武優氏		
	阿蘇くじゅう国立公園管理事務所	岩崎辰也氏	松原かおる氏	鈴木裕二氏	荒川妙恵氏
	雲仙自然保護官事務所	日比野晃裕氏	堀松隆久氏		
	えびの管理官事務所	靄田奈津希氏			
福岡県	環境部 自然環境課	藤野広氏	金澤元仁氏	古賀淳之介氏	
佐賀県	県民環境部 有明海再生・環境課	秀島智子氏	山口欣偉氏	西村泰史氏	
長崎県	県民生活環境部 自然環境課	深谷雪雄氏	鶴田りえ氏		
熊本県	環境生活部 自然保護課	菊池佳代氏	鍛治美沙里氏	篤永直樹氏	
大分県	生活環境部 自然保護推進室	丹生祥子氏	古椎将平氏		
宮崎県	環境森林部 自然環境課	松木孝仁氏	田中悠祐氏		
鹿児島県	環境林務部 自然保護課	川瀬翼氏	桑幡純一氏	中尾大輔氏	

九州自然歩道憲章

— 「九州自然歩道」の再生と保全と活用への指針—

●九州自然歩道のあり方

- ・九州自然歩道の基本は、7県をつなぐ一本のシンプルな線であり、シンボルである。
- ・多種多彩多様な利用者のニーズにこたえるトレイルとする。
- ・人と人とを結びあう「絆」のトレイルとする。
- ・それぞれの地域、自治体は、個性は出しても必ず全体像を意識して行動する。

●九州自然歩道の目的

- ・豊かな自然や歴史・文化を地域の人たちが再認識し、九州と云うふるさとへの誇りと愛情を持ってもらうことを目指して行動する。
- ・生物多様性を十分に理解・認識して保全と活用の両面から整備するシンボリック的存在とする。

●九州自然歩道の整備と保全と維持・管理

- ・九州自然歩道を歩く人たちの物語性や夢とロマンと冒険を意識した整備を行なう。
- ・持続可能な活用のための維持・管理と保全活動を国、自治体、民間団体の連携・協働で行う。
- ・環境への負荷を極力軽減するために定期的、持続的な環境調査を連携・協働で行う。

●九州自然歩道の再生と保全と活用への連携と協働

- ・国、自治体、民間団体との緊密なる連携と協働のもとにトレイルづくりを行なう。
- ・国、自治体、民間団体が主導しつつもかつバックアップにも徹する。